

1 法人の概要

1) 沿革

昭和15年	12月28日	財団法人村上学園設置認可
16年	4月1日	布施高等女学校開校
22年	4月1日	布施高等女学校附属中学校開校
23年	4月1日	新制高校の発足により布施学院高等学校と改称
24年	2月15日	布施女子高等学校、同中学校と改称
26年	3月13日	財団法人村上学園は学校法人村上学園となる
28年	4月22日	学校法人村上学園布施女子高等学校附属幼稚園開園
38年	4月1日	学校法人村上学園柏原女子高等学校開校
39年	1月25日	学校法人村上学園柏原高等学校と校名変更、男子部を併設
40年	1月25日	布施女子短期大学（42年4月、東大阪短期大学と校名変更）家政科設置認可を得、開学
41年	1月25日	布施女子短期大学保育科を増設
43年	4月1日	家政科を家政学専攻と食物栄養学専攻に分離認可
44年	4月1日	保育科を幼児教育学科に改称（47年3月廃止）
45年	2月9日	児童教育学科設置認可を得、同年4月1日開設
45年	4月1日	家政学専攻を服飾デザイン専攻に改称 柏原高等学校、女子部を廃止
48年	4月1日	児童教育学科を初等教育学と幼児教育学に専攻分離
63年	3月31日	東大阪中学校廃校認可を得、廃校
平成11年	7月28日	児童教育学科の初等教育学専攻の募集停止届出
12年	3月1日	家政学科に生活福祉専攻設置認可を得、同年4月1日開設
13年	3月31日	児童教育学科の初等教育学専攻廃止届出
13年	5月15日	校名変更認可、平成14年4月から東大阪高等学校を敬愛女子高等学校と改称
14年	4月1日	児童教育学科を幼児教育学科に、服飾デザイン専攻を生活デザイン専攻に名称変更
14年	12月19日	東大阪大学設置認可、平成15年4月1日開学 校名変更認可、平成15年4月から東大阪短期大学を東大阪大学短期大学部と改称
15年	1月24日	校名変更認可、平成15年4月から東大阪短期大学附属幼稚園を東大阪大学附属幼稚園と改称
15年	4月1日	東大阪大学こども学部こども学科開学
18年	4月1日	敬愛女子高等学校を東大阪大学敬愛高等学校に名称変更 柏原高等学校を東大阪大学柏原高等学校に名称変更 東大阪大学短期大学部家政学科を健康福祉学科に、食物栄養学専攻を健康栄養専攻に名称変更 家政学科生活デザイン専攻を平成18年度より募集停止
19年	3月31日	家政学科生活デザイン専攻廃止届出
22年	3月31日	東大阪大学敬愛高等学校商業科廃止
22年	4月1日	健康福祉学科を健康栄養学科に名称変更 健康栄養学科生活福祉専攻を平成22年度より募集停止
23年	3月31日	健康栄養学科生活福祉専攻廃止
23年	4月1日	東大阪大学こども学部アジアこども学科開設
28年	4月1日	東大阪大学短期大学部健康栄養学科を実践食物学科に、幼児教育学科を実践保育学科に名称変更

2) 設置する学校・学部・学科 (平成29年度)

- (1) 東大阪大学 こども学部 こども学科
アジアこども学科
- (2) 東大阪大学短期大学部 実践食物学科
実践保育学科
- (3) 東大阪大学敬愛高等学校 普通科 (全日制課程)
- (4) 東大阪大学柏原高等学校 普通科 (全日制課程)
- (5) 東大阪大学附属幼稚園

3) 当該学校・学部・学科の学生数 (平成29年5月1日現在)

学 校 名	学部・学科名	学生・生徒数
東大阪大学	こども学部	274
東大阪大学短期大学部	実践食物学科	65
	実践保育学科	110
東大阪大学敬愛高等学校	普通科	806
東大阪大学柏原高等学校	普通科	722
東大阪大学附属幼稚園		267
合計		2,244

4) 役員・教職員等の概要 (平成29年5月1日現在)

- (1) 役員 理事 7人
監事 2人
- (2) 評議員 15人
- (3) 教職員 331人

	教 員		職 員		合 計
	専任	非常勤	専任	非常勤	
法人部門	0	0	9	11	20
東大阪大学	24	29	13	7	73
東大阪大学短期大学部	28	17	19	3	67
東大阪大学敬愛高等学校	42	11	8	3	64
東大阪大学柏原高等学校	54	12	10	6	82
東大阪大学附属幼稚園	16	1	6	2	25
合 計	164	70	65	32	331

2 平成29年度事業計画における進捗状況等

1. 評価育成制度の試行実施

平成30年度からの本格実施に向けて、各教員に教科指導・生徒指導・学級経営・課外活動の4つの分野に関して目標を持たせた。また、数値化できる項目、内容については数値化した目標を持たせた。個別面談では、目標・目標値の確認と、目標達成の方法をより具体的に聞いた。最終の報告で数値目標に対する達成度、自己評価を提出させた。

2. 教科指導の充実

イ) 研究授業の実施

5月上旬 5教科の研究授業を実施 授業のない教員はほぼ全員授業見学を行い、授業の研究、向上に向けてよい研修となった。

今年度は早い時期の実施したことで、成果があがった。

ロ) 生徒による授業アンケートの実施

7月の最終登校日に実施。各教員の授業について、具体的に「話し方は」「板書は」「説明の工夫は」「副教材の準備は」「適正な難易度か」など10項目に分けて生徒の評価を5段階に分けてアンケート調査を実施。また、文章による評価、感想、希望する改善点についても具体的に記入。個別に改善が必要な項目を校長より指摘。改善方法とその効果を目指管理制度の中で確認した。

校長より夏季研修の中で授業アンケートの結果について改善を指示した。

ハ) 「総合的な学習の時間」についてクラスでグループ研究を行い、中間発表とまとめの発表を1.2年総合進学コース、1年こども教育コースで行った。

3. 生徒指導について

イ) 問題行動の指導について

①今年度については問題行動、指導件数ともにおよそ半分に減少した。さらに、指導された生徒数も1割減少した。学校全体の取り組みの効果が現れたのではないかと考えられる。しかし、その一方で留学生の指導が多くなっている。留学生の数が増えているのに比例して、指導件数が増えているが、規範意識が非常に低いことが伺える。寮内での指導についても今後徹底していかなくてはならない課題である。

②平成28年度から導入したイエローカードによる指導の効果が顕著に現れ、問題行動同様イエローカードによる指導も前年より3割強減少した。

ロ) 生徒相談係

① 今年度、サポート対象生なし

② 相談件数：面談10件 ケース会議13件

学年、学級担任、保健室と連携し、相談しながら進めた。

4. 生徒会活動について

イ) スポーツ大会

① 大半の生徒はスポーツ大会の実施を肯定的にとらえ満足していると思われる。

② 進行がスムーズで審判と応援がしやすかったと全体に高評価だった。

ロ) 体育大会

① 昨年同様、各クラス用テントを設置した。柏原・大学からテントを借りたことで費用削減ができた。

② 雨天で延期になり、平日にもかかわらず体育祭の来校者数が多く、観覧席が不足気味だった。来年度も土曜日実施のため、さらに多くの来場者があると思われる。

ハ) 敬愛祭

① 生徒感想は満足度の高い結果だった。

② 来場者1480名（昨年度1798名）

オープンスクールではなかったので中学生の参加は少なかった。

③ K Iグランプリは生徒の満足度は高かった。

④ 初めて前夜祭を実施したが、生徒会役員の運営・進行で高い評価となった。

ニ) 生徒会行事

- ① 昨年度より大縄跳び大会、クイズ大会を行っている。改善点はいくつかあるが、大半の生徒が満足している。

ホ) クラブ活動

- ① 陸上競技部、空手道部、柔道部の活躍は例年通り好成績であった。
 ② 体育館でのクラブ・サークル活動が盛んになり、クラブ加入数約 300 名。

5. 進路指導について

在籍人数 278 名 3月上旬

コース		在籍	四年制	短期大	専門	就職	未定 (浪人・アルバイト含)
普通科	総合進学	176	81	15	48	30	12
	こども学	45	20	17	4	2	2
	調理・製菓	57	9	12	22	10	4
合計		278	110	44	74	32	18
%			39.6%	15.8%	26.6%	11.5%	6.5%
			82.0%				

- ① 平成 29 年度の進路状況は、昨年と比べ、四年生大学の進学率が上がり、短期大学と専門学校がその分下がった。

今年度の特徴としては、内部進学者は 60 名で昨年とほぼ同数。調理・製菓コースからの卒業生だが、辻調理専門学校に進学する生徒が大変多く、今後は何とか内部進学をするように指導していかなくてはいけないと感じる。就職希望者はほぼ全員合格であった。

	就職希望者 (4月)	求人数 (8月)	内定者数 (3月)
H28 年度	39	288	35
H29 年度	33	399	32

- ② 就職指導について

今年度の就職希望者は、昨年度とほとんど変わりがなかったが、就職売り手市場などと報道されている昨今の世相を反映してか、ハローワークを通じての就職希望者は 1 名以外全員合格であった。また、外食産業や建設業、製造業、福祉などの分野における現業職については、年度末まで高卒求人が続々と届いていた。いち早く就職を決める生徒は、夏休みから職場見学に積極的に参加した者であったので、早期からの適正、適職を見つけての活動を更にサポートしていく必要があると考える。

6. 入試広報について

イ) 中学校訪問

- ・ 生徒募集係 6 名で 280 校を年 2-6 回訪問。担当校以外のオープンスクール・入試説明会に参加してくれた中学生の学校にも訪問し、よい結果につながった。
- ・ 東大阪市の 2 校から進路学習会に呼んでいただき、直接中学 3 年生に学校紹介ができたことが、その学校からの大幅な受験者増につながった。また八尾市 2 校から高校体験として来校してもらった。今後もこのような関係の学校を増やしていくことが大切。

ロ) 塾訪問

- ・ 昨年度とは違い、全員の先生方で割り振りをして約 5 塾 2 回の訪問を行った。
- ・ 在校生の出身塾を回ったが、遠方の塾はなくして地元を中心とした。
- ・ 数年ぶりに塾長対象入試説明会を開催したが、参加者数が少なかった。時期と告知方法を検討する必要がある。

ハ) 広報活動

- ・ 今年度初めて、イベント全日程のチラシを作成し、各担当中学校の中学 3 年生全員に配布することができた。年間入試イベント情報が伝わりやすく、効果的に思われる。

- ・ 昨年度の参加者約 1032 名と比べ、今年度は約 2000 名となり、大幅な増加となった。
- ・ 新校舎記念イベントも今年度の受験者数に繋がった。記念イベントだけ参加した中学生もいた。
- ・ 第 3 回オープンスクールでは、想定よりも相当多くの来校者数であったため十分な対応ができなかった。その結果、出願に結びつかなかった可能性がある。次年度はそのようなことがないようにしていきたい。
- ・ 公立高校もオープンスクールに力を入れている傾向になり、中学生にとってはオープンスクールを自身の進路と結びつけるというよりは、楽しい体験型のイベントとして捉えているのではないだろうか。そのために、一人の中学生が多くの学校のイベントに参加し、オープンスクールの参加者数と出願者数に開きが生じたと考える。
- ・ 冬休み受験集中講座は 2 日間で約 880 名の参加があり、昨年の 480 名から大幅に増加した。ただし、併願生よりも専願生をもっと呼び込めるように、工夫する必要があるように思われる。
- ・ テレビ情報番組「あさスマ」の番組撮影をし、学校の紹介がわかりやすくまとめられており、内容的によかった。また、今年度は入試広報部オリジナルで、スペシャルムービーも制作し、オープンスクール等で何度も上映することで、多くの方々に本校の魅力が伝わったのではないかと思われる。

今年度の入試結果は、出願者数は専願で 223 名 (+44) 名・併願で 680 名 (+107 名)、合計 903 名となり、昨年の 752 名から 151 名の増加となった。中庭の完成や、オープンスクールの参加状況から、志願者がかなり増加すると考えていたが、それほどまでの増加にはならなかった。単年度で見ても原因を把握するのは困難だが、イベント参加者数と志願者数が必ずしも比例しないという傾向を念頭に入れて、今後もさらにオープンスクールの告知方法や内容などを考えていきたい。継続して公立の入試制度の編改革に負けない魅力ある学校を創造する必要があり、どのコースも特色を打ち出し、魅力のあるコースとして募集していきたい。

3 財務の概要

別添 平成 29 年度	資金収支計算書	
	事業活動収支計算書	
	貸借対照表	
	財産目録	
	監査報告書	参照